

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームつつじ 第一ユニット	評価実施年月日	平成21年1月10日～平成21年2月10
評価実施構成員氏名	亀田 千鶴子 金澤 光江 松濱 めぐみ 三村 真弓 加我 和美		
記録者氏名	亀田 千鶴子	記録年月日	平成21年2月15日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>独自の運営理念の他に五つのポリシー(方針)が決められており、それに沿ってサービスを提供している</p>	○	地域に根ざした文言を加えた方針を検討中である
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>運営理念を職員の目の止まる所に貼っている。社内研修でも再確認し、実践できるようにしている</p>		日々の生活の中で再認識した事を実践していきたい
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>目の届きやすい所に掲示しており、入居の際にも説明している。また運営推進委員会などにおいてもプリントを配布し理解してもらえるよう説明を行った</p>		運営推進委員会で民生委員の方、ご家族等へ日々の暮らしや取り組みについての報告をお写真を見ていただきながら行い、意見交換している
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>散歩時や通勤時に近所の方にご挨拶をしている。近隣の施設の方々も庭のベンチで自由にも休まれており、近所の小学校の運動会や学芸会、秋の収穫祭、周辺施設の夏祭りなどに参加している。地域に開かれたホームを目指し、運営推進委員会などを通じて気軽に遊びに寄って頂けるような呼びかけは行っている</p>		お互いの行事に参加する機会を継続し関係を深めていきたい
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>小学校の学習発表会や近所で行われる秋の収穫祭、他の施設のお祭り、雪明りの路にも参加させて頂いた</p>		運営推進委員会で地域の方との交流や取り組みについてお写真を見てもらいながら意見交換をしている。町内の災害時の取り組みにも参加させて頂いた
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>運営推進委員会においてノロウイルスやインフルエンザなどの感染症についての伝達講習や認知症についての勉強会を開催した</p>		家族の方の関わり方も都度伺い、ご相談にのっている。今後も研修会などへ参加した時には伝達講習を運営推進委員会の中でも行っていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価や外部報告書に基づき職員全員が十分に話し合いを行っている。評価後の足りない部分については改善計画シートを作成し具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	不足部分を補い、より良いホームにしていきたい
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回開催し、地域の方やご家族と話し合う機会を作り、そこで出た意見をサービス向上に活かしている</p>		運営推進委員会では自己評価・外部評価について確認する時間を作り、改善に向けた取り組みをお伝えして意見交換の中からもサービス向上へ活かせるようにしている
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>書類を提出する時に窓口で相談をしている</p>	○	市町村と共に、サービスの質の向上に取り組めるような機会を作っていきたいと思う
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者研修において学ぶ機会は出来たが活用までは至っていない</p>	○	機会があれば活かしたい。今後も権利擁護に関する制度の理解を深めていきたいと思う
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>社内、社外研修で学ぶ機会を作っている。職員が熟知できるように努めている</p>		今後も社内研修にて学ぶ機会を作り虐待防止の徹底に努めていきたいと思う
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>サービス提供前に契約書、重要事項説明書などを説明し同意を頂いている。又、解約時には十分に話し合いを行い不安を少なくしていただき、納得のいく退去先に移れるよう支援をしている</p>		今後も十分な説明を行い、理解、納得を図っていききたいと思う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見や苦情、不安に思っている事などを都度、伺うようにしており、ご家族と相談しながら解決できるように努め日々の生活に活かしている		個別に時間を作り納得していただけるようにお話している
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に健康状態や暮らしぶりについてお話している。また面会に来られない方には電話で報告を行ったりしている。2ヶ月に1度、ホームでの暮らしぶりをお便りでお知らせしている。金銭管理ではお小遣い帳を作成し、収支を明らかにしている		今後も個々にあった対応を行っていき、面会時などにはアルバムや作品などを見ていただきながら暮らしぶりを継続して伝えていきたい。ホーム便りの発行も年2回行なった
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	市や国保連等の外部機関の説明をしたうえで管理者及び、職員にも窓口がある事を伝えている。意見箱も設置し、ご意見、不満、苦情などを気軽に書いていただけるようお願いしている		ご意見を出してもらいやすいように面会簿にも記入欄を作った。また、運営推進委員会においても都度ご意見を伺い、運営に活かしている
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に会議を開き意見交換の場を設けている		月に1回、スタッフからの意見を聞く機会を作っている。今後も直接介護をしている声を重視していきたい
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	業務に支障が出ないように勤務調整を行った。対応が出来るようにプラスの職員を確保するよう心掛けている		ヘルパー資格を持つ事務職員が対応している事もある
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動については代わる職員と時間を重ねるようにして、利用者へのダメージを防ぐよう努力している		異動による不安を解消できるよう複数の異動をしないようにしている。また異動直後は利用者との関わりの時間を多く持ち、話をよく聴くよう心がけている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>社内研修を毎月実施している。また段階に応じて外部研修の機会も確保して、参加できるようにしている。また資格取得のために勤務を調整するなどして職員育成に努めている</p>		資格取得を目指すよう勧め、有資格者がテキストや勉強方法についてのアドバイスを行った。今後も社内、社外研修を行い職員のスキルアップに努めていきたい
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>市外の他のグループホームの見学を行った。また、グループホーム協議会への参加も行っている。協力関係機関の病院や施設の合同学習会などにも参加しサービスの質を向上できるよう努めている</p>		道内の他のグループホームを見学し生活に活かしている。今後も同業者との交流を深められるよう努めていきたい
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員同士の親睦は図られており業務上の悩みはいつでも話し合えるようにしている</p>		お食事会などを開き、話しやすい雰囲気を作った。また各フロアのチーフ、管理者などで会う機会を作り相談しやすい環境を作っている
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>勤務状況を把握し、それぞれの職員が能力を発揮できるようにと努めており段階に応じて外部の研修にも参加してもらい学ぶ機会を作っている。また、資格の取得も勧め、働きながらヘルパー2級の取得や介護福祉士などの資格取得についても努めている</p>		研修後の伝達講習を社内研修の中で開催した。勤務年数や個々の実績に応じて実践者研修、管理者研修にも参加させてもらっている
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご本人やご家族からよく聴いている。ご見学を勧めご本人が納得してここでの生活が送れるように支援している</p>		見学を勧めこれからの生活の場を見てもらっている。不安に思っていることやこれまで楽しみで行っていた事の内容を聞き、具体的な生活援助を提案している
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>お時間を作っていただき、ご家族のお話をよく聴いている。不安な事や困っている事等を良く聴き対応を図っている</p>		入居までにご本人が見学し数度体験も行なって頂き、無理のない入居を勧めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当者が相談内容を判断し、他のサービス利用が適切と思えるときにはそのように伝え、相手方のサービス担当者にも連絡するなどしている。ご本人やご家族の気持ちを知り、出来るだけ添えるように対応している		入居を不安に思っている方には、御本人、御家族が納得のいくまでホームを見学して頂き、その都度お話を良く聴きいている。不安な事や求めている事を受け止めれるよう努めている
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居希望がある時にはご家族と共に十分に話し合い、事前にご家族やご本人にホーム見学を勧めている。入居の時に少しでも馴染みになっているようお茶を飲みながらお話しする機会を作ったり、行事への参加を勧めている。		お食事の希望があれば応じる用意が出来ている。ご本人、ご家族の心情を考慮しながら安心してサービスを開始できるように対応していきたいと思う。何度か体験を重ねてからサービスを開始された方もいる
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に家事を行いながら生活の知恵や体験を聞き、教えてもらうという姿勢で接している。人生の先輩として接するよう心掛けている		調理方法、草花の名前、ことわざ等を聞き、関わりの中から自信の回復につなげている。今後も共に学び、共に支えあう関係を継続し、その人らしい生活が送れるよう支援していきたいと思う
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の方と共に、日々の生活について共有し面会時や電話等で関係を深めている		外出や食事、ホームの催しに招くなどして、ご家族と一緒に過ごしながらか楽しい時間を過ごしていただくなどして、家族と共に支えていく関係を築いている。ご家族の中にはボランティアで歌会を開催して下さる方もいる
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居の際に家族関係、友人関係、交流関係を確認し、継続できるように支援している		主治医の継続やご家族との外出など、継続していけることをご家族と話し合い取り入れるようにして支援している
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族と出かける機会の連絡を仲介している。ご本人が希望した場合は昔から通っている美容室や、病院受診などはご家族の協力を得て継続して利用する事ができている		出来る限り、ご本人の希望に沿ってご家族の協力のもと、支援を行ってきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の生活や性格に配慮し気の合う仲間作りの援助をしている		家事や余暇活動の際に職員がきっかけを作り、会話する機会を作っている。またお互いに支えあう関係が出来ており、それを支援している
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	終了時も相談事に応じたいと伝えている		入院などによる退所時には完全な退所が決定するまで、病院・家族と連絡を取り合っている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご本人、ご家族より生活暦を伺い、その人らしい生活が送れるよう支援している。希望や意向など、その都度聞くように努めている		一人ひとりに合ったケアが行なわれるよう職員間で話し合っており、趣味活動も応援している
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族より、生活暦や嗜好などを聞き、フェースシートとして記録している。情報を元にその人らしい生活が送れるように支援している		各職員が聞き取りした内容を共有し把握している。ご本人の好みや習慣を損なう事の無いように努めている
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人の一日の流れを把握し、お声かけや見守りをしながら心身の状態を確認している。現在、行なえていることを維持できるようご自分で出来る事はご本人に行なって頂き、残存能力の活用に努めている		身支度や食後の歯磨きの習慣などを再開できるよう支援している。毎日のバイタル測定で健康状態の変化にも留意し、職員間で情報を共有し現状の把握に努めている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意向をお聞きし、状態の変化を見ながら個々に合った介護計画を作成できるよう職員間で十分に話し合っている		ご本人、ご家族からの聴き取りや担当者会議で職員と話し合い作成している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護支援専門員の管理のもと、介護計画の見直し時には担当者会議を開催し、モニタリングをして現状に即した計画作成をしている		これからも現状に適したプランに沿って生活支援を行なっていきたいと思う
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に基づき、一人ひとりの様子を毎日記録に残している。変化に合わせて介護計画を見直している		申し送りノートを活用して情報を交換し、具体的にどうすれば良いか取り組んでいる
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	お部屋やリビング、中庭を自由に利用してもらい、宿泊にはゲストルームを用意している		ご本人やご家族の要望に応えられるよう柔軟な支援を行なっていく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方は運営推進委員会へ参加をしている。消防による救急救命講習は年2回あり、地域の小学校では学習発表会や、運動会などへ招待して下さる。また幼稚園の生徒達が中庭に来て歌や踊り等を披露して下さり交流を持つ事ができた。家族ボランティアによる歌会の開催や茶道やマッサージの先生によるボランティア活動等もあり協力しながら支援を行っている	○	今後も交流の幅を広げながら継続して支援していきたい
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のケアマネジャーや事業者と連絡をとっている		入居の際の相談や転居などで協力を得ており、ケアマネージャーにもグループホームの生活を見て頂くことを勧めている
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	近くにある地域包括支援センターに相談を行なっている。今後も必要時に相談したいと思っている		新しい利用者の入居相談も続けていき、状況によりグループホームがふさわしいかどうか必要時には相談したいと思っている



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	協力病院へ転院するか以前からの病院を継続するかはご本人、ご家族に確認し納得の得られた受診が行なえるよう支援している		今後も契約時にご本人、ご家族にご意向を確認させて頂き、個々に合わせた病院を受診できるように支援していく
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院の医師に相談している。専門医の診察が必要であれば対応も行なっている		協力病院は優先的に診療する時間を設け対応してくれている。家族が同席しドクターからのお話を直接聞くこともあった。他の病院への紹介も行なってくれる
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院(内科、整形外科、歯科等)の看護師に相談している		健康状態を伝え、医師との橋渡しをしてくれている
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院やご家族から経過の状態を知らせてもらい、連携して早期に退院できるように努めている		入院時はご家族、病院と連絡を取り合い、情報交換をして退院に向けての相談を受けている
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	主治医、家族と早い段階から十分に話し合いをして方針を決めている		必要に応じその方にあった機関の利用を支援している。重度化や終末期に向けての方針作成への取り組みも行なっている
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人、ご家族の意向を充分お聞きして、主治医とも相談しながら一番適した環境で安心して過ごせるように支援している		より良く生活できるよう支援している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>情報の交換を行なっている。ご本人、ご家族が納得のいくまで見学に来てもらい、催しなどにも参加して頂き、徐々に馴れてダメージを極力少なく出来るよう努めている</p>		<p>ご本人、ご家族の希望に合わせてレクリエーション活動や、ボランティアの催しなどに参加が出来るよう今後も対応していく</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>人生の先輩として尊敬の念を忘れないよう心掛けている</p>		<p>人生の先輩として尊重している。記録はご本人が話したことをそのまま記録するようにしている</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご自分で決定できるように分かりやすく話したり、問いかけたりしている</p>		<p>趣味活動や理美容の利用など利用者の希望を取り入れた支援を行なっている</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>希望に合わせ、一人ひとりのペースに合わせた対応を行ない、自由に過ごして頂けるように努めている</p>		<p>食事、入浴など個人のペースに合わせて対応している。家事についても一緒に関わりながら無理のないように勤めている</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご家族の協力のもと、昔から通っている美容室へ外出したり、訪問理容を利用するなど、ご本人の希望を取り入れて支援している</p>		<p>季節や外気温に合っているか見守り、おしゃれのアドバイスを求められたときには一緒に楽しむようにしている。町の美容室に行く機会も設けているが、以前からの美容室へご家族と一緒に出かける方もおり、継続できるように支援している</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者と職員が同じ食卓に座り楽しく食べられるように支援している。また何が食べたいかなどの希望を聞き、ある材料で工夫し調理している。季節や行事に合ったメニューも提供し、美味しく食べられるように努めている。食事の準備、後始末は出来る範囲内で楽しく行なってもらっている</p>		<p>嫌いな物が出た場合には他の物を提供し個人の好みに合わせた食事ができるように支援している。食事の準備や後片付けは職員と共に、日課として行なって下さる方もいる</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好について希望に合うように配慮している。現在、喫煙されたりお茶をご自分で点てて飲まれている方もおられ日常的に楽しめるように支援している		場所を換え、お茶を楽しみながら楽しいコミュニケーションの場になるよう支援し喫煙してもらっている。健康の為に毎朝、青汁を飲まれている方もいらっしや、好みの物を個々に合わせて日常的に楽しめるように今後も支援を続けていきたいと思っている
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレ誘導や声掛けが必要な方にはさりげなくサポートしている。失禁による不快感を軽減し出来る限り、トイレで排泄する事が出来るように支援を行っている		排泄のリズムを把握し定期的に誘導したり声を掛けたりしている。職員2人で介助を行いおトイレで自然排泄を維持されている方もいらっしやる
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	お一人で入られたり、職員介助で入られたりと、個々の希望に合わせてゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。		お湯に浸かる時間は個々のペースに合わせているが、身体への負担が考えられる場合はお声を掛けさせてもらっている。利用者の気分に合わせ午前浴の事もある
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の生活リズムや体調に合わせた休息を取れるよう支援している。また、夜間の巡視にて安全の確認を行い、安心してゆっくりと休む事ができるよう支援している		夜にリビングでテレビを観て過ごされる方、自室で本を読まれる方など、個々の生活リズムを知り大切にしている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事の得意な方、先生をしていた方などで読み書きが好きな方には過去の生活も重視しながら継続して行えるように支援している。縫い物が好きな方や歌が好きな方、お茶をご自分で点てて飲む方など個々に合わせた楽しみごとが行えるよう努めている		茶道教室や書道教室、歌の会などがあり、今後も張り合いのある生活を送り楽しんでもらえるよう取り組んでいきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人が希望された場合にはご家族と相談し金額が大きくなる程度で所持してもらっている		どこに置いたか忘れてしまう事もある為、希望をお尋ねし、ご家族と相談しながら対応している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望に沿った外出の機会を持っている。ご家族の協力の下で外食をしたり、ご自宅で過ごす機会を持っているが、全ての方までとは至っていない。		近隣への散歩、庭の散歩などにお誘いしている。状態に合わせて片道に車椅子を使うなど、負担を少なくするようにしている
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節の景観を楽しむ事を取り入れている。春の花見、秋の紅葉狩り、学校行事の参加、近隣ホテルの収穫祭、複合施設の夏祭りなどへ出かけ、交流を図りながら季節行事を楽しんでいる		今後も外へ出かけられるような機会を多く持つ事ができるように努めていきたい
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族やご友人宅へ電話を掛けたい時はいつでも掛ける事ができる。希望により携帯電話を持たれている方は、自由に電話をかけ会話を楽しんでいる。また、ご友人からの電話や面会があった時にはゆっくりとお話をしてもらっている。年賀状やお手紙のやり取りもご家族にも協力していただき行なっている		ご希望に合わせて電話でお話されたり、来訪があったり、外出をしたりしている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	お部屋でお茶を飲みながらゆっくりとお話する事が出来るように支援している。ホームの催しなどがある時にはお誘いし、一緒に楽しんでもらっている		いつでもご面会に来て頂けるようにご家族、ご友人、ご本人に伝えている。また、職員にも気軽に話しかけて頂けるよう心掛けている
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止については委員会を開催しており、日頃からも話し合い、大切さを確認している。また、社内研修においても定期的に学んでもらい、再度、確認してもらっている。	○	実践者研修の参加も再度申し込みを行なっていきたいと思っている
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、鍵は掛けていない。夜間は防犯上、施錠している		夜、遅番が退社後に掛けている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の所在や様子は把握し、安全への配慮を行っている		健康状態の把握、安全の確認を行っている。自室で過ごす事が多い時には、様子の確認の為、訪問させてもらっている
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤、火気、刃物、薬は基本的には職員が管理している。ご本人の希望で状況に合わせてお渡ししている方もいる		ご家族と話し合い了解を得ている
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	社内研修で学ぶ機会を持ち、事故防止に取り組んでいる。マニュアルも作成してある		個々のプランに反映し、支援している。今後も急変や事故発生時にすぐに対応できるように繰り返し社内研修で学習していきたいと思っている
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に夜勤者を含め職員が研修に参加できるようにしている		消防の協力をもらい、救急救命の講習、フロア単位の研修などを開催している
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練、自主訓練、夜間避難訓練などを行なっている。隣接しているグループホームと協力し安全に避難できる体制を整えている。また、職員は民生委員の方の紹介で地区で行われた災害図上訓練DIGに参加し地域防災の取り組みについても学ぶ機会をもった		民生委員、ご家族などが集まる運営推進委員会においても協力を得られるように努めた。今後も定期的に避難訓練や救急救命の受講を行ない、避難や救助できる方法を身につけていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	身体的、精神的な面から主治医の指示やご家族からの情報を頂いて対応策を話し合っている		転倒や誤嚥する危険性などをご家族に説明している。食事の形態を見直したり、歩行時の支えなど、行なっている対応もお伝えしている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	健康状態を把握し様子の違いに気付けるよう努めている。変化があれば情報を共有し、対応に結び付けている		毎日のバイタルチェック、食欲、歩行、話し方にいつもと違いが無いか確認している。あえれば情報を交換、共有している
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を記録簿の中に綴り、確認している。個々の薬箱があり、服薬後の身体、精神面での変化に関しても注意して観察を行なうようにしている		副作用に関しては薬の説明書を読み確認する事になっている。内部研修においても服薬に関する勉強を行なった
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	体操、飲食物の工夫、医師への相談などを行なっている。また、水分量、排便状況の把握に努めている		起床後に牛乳を提供したり、体を動かしてもらったり、便秘薬の調整(医師からの指示)を行なっている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に歯磨きをして頂き、不十分な方には声掛けや一部介助を行い、清潔を保てるようにしている		毎食後、見守りや介助を行い、磨いていただいている。また、歯科衛生士の資格を持つ者もいるので相談することもある
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量はおおよそ把握しており、介護記録に記入している。食欲の無い方や、飲み込みの悪い方など、一人ひとりの状態に合わせてお粥やミキサー食、水分にはとろみを付けるなど工夫している		嚥下機能の低下を防ぐ為、嚥下体操なども取り入れている
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外部から持ち込まれないようにしたり、食事の取り扱い、汚物の処理等を取り決めた感染症マニュアルを作成している。毎日のお掃除に次亜塩素酸ナトリウムを使用し予防に努めた。流行時には来客にも手洗いを勧め、マスクを着用してもらっている		職員、利用者共に手洗いを励行している。感染症に関して内部研修を行ない勉強しており、利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を全員受け予防に努めた。運営推進委員会においても感染症についてのお話をさせてもらっている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、機材、布巾、などは消毒を行い、食材は鮮度の良い物を使用し、賞味期限などを確認している		その都度、包丁やまな板などへの消毒を行うが、遅番の職員が最後の消毒を終え、キッチンチェック表へ記入する事としている。また冷蔵庫内の消毒も定期的に行っている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	中庭には芝生や樹木が周りにあり癒しの空間となっている。畑にはお花や、野菜を植え、玄関には草花を飾ったり、観葉植物を置くなど温かい雰囲気を出せるように努めている		中庭に設置しているテーブルやベンチは散歩の際に近隣の方も立ち寄って下さり、お茶を飲みながらお話されていく事もある
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の草花や飾り(ひな祭り、五月人形、クリスマス、お正月)をし、季節感を出せるように配慮している。毎日のお掃除により、快適な環境作りを心掛けている。不快な音や、光がないようにその都度、職員が調整している		食事の内容にも季節感を味わって頂けるように旬の物を取り入れた。今後も快適に過ごしていただけるような空間作りに努めていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング、食堂、個室などを自由に使用していただき、気の合う仲間同士でおしゃべりを楽しまれたり、個室でゆったりと休まれたりと思いついた過ごし方をしている。		1・2Fの移動もご自由にされており、他のフロアで過ごされる方もいる
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人の馴染みの家具が配置され、安心して生活できるように配慮している		家具、置物、写真、衣類、食器等、以前から愛用されているものを持参されている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度計を設置し、適度になるよう調整している。お掃除の時には各部屋の窓を開け、空気の入換えを行ったり、臭いが気になるようであれば換気扇をまわしている。居心地良く過ごせるよう配慮している		臭い対策としては換気他に木炭を置いたり、消臭剤を使用している
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	ホーム内の床は前面バリアフリーで安全に歩けるようにしている。廊下、階段、トイレには手摺りを設置。浴室も手摺りと滑り止め、浴槽をまたげない利用者には座シャワーを利用して頂いている		椅子も体幹が保てるように滑り止めマットをひいたり、回転椅子を利用している。今後も安全にできるだけ自立した生活を送れるよう、環境作りに努めたいと思っている
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご本人の出来る事と出来ない事を把握し、出来ない部分については一緒に行なっていただき、自立に向けての支援を行っている		職員と一緒に炊事やお掃除、洗濯、縫い物などの活動を無理の無い範囲で楽しく行なわれている。自信の回復を図りながら自立に向けた支援を今後も行なっていきたい
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭や散歩道ではゆったりと過ごし、野菜を収穫したり、花が咲くのを眺めて過ごしている。中庭ではホーム喫茶を開催したり、ボランティアでお琴の演奏会が開かれたりして、他のフロアの方や、同じ敷地内のグループホームに入居されている皆さんと楽しく交流できる場として活用している		中庭は地域の小学生がお祭りの時に御みこしを担いで来て下さったり、幼稚園の生徒が歌や踊りを披露しに来てくれたりと楽しい活動の場となっている。冬場は他のフロアへ遊びに行く時間を定期的に作り、お茶や会話を楽しんでいる



V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③なまに ④ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

自然豊かな環境の中に建っており家庭的な雰囲気の中で利用者の方々が安心して暮らせるように努めています。一人ひとりが持っている能力を引き出しその方に合った自立した生活を楽しく送れるようにお手伝い致しております。地域の方々の協力を得ながら交流を深め、地域に密着したグループホーム作りを目指し取り組んでおります。